



神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。



2016年に創業百周年を迎えた日本ファイルコン株式会社（本社・東京都稲城市）の社史編纂室を取材して、担当の青柳右文さんと宮川孝之さんからお話をうかがいました。

日本ファイルコンは、紙の製造工程で用いる金網の製造で創業し、現在は製紙関連だけでなく、その技術を応用した半導体関連の事業なども行っている会社です。

日本ファイルコンの100周年記念誌の既刊には、写真と図版を中心とした「日本語版」（2016年刊行）と日本語版を英訳した「英語版」（2017年刊行）があり、

現在は正史の位置づけになる「年表編」（仮称）を編纂中、秋頃の刊行予定だそうです。実は「社楽」では前から社史編纂の現場の取材を考えていました（たとえば4年前の16号の欄外にも書いています）。しかし、「関係者以外は入れないので…」などの理由で、作業中の社史編纂室をなかなか取材することができませんでした。この取材は70号にして、ようやく実現した企画なのです。

【年史の編纂について】
日本ファイルコンの社史編纂は2012年12月に始まった事業です。

青柳さんが担当となり、すぐに宮川さんも加わって、2名体制で編纂作業を続けることになりました。

社史編纂室が新設され、まず事務所内の一角をパーテーションで区切って場所の確保をし、資料を整理するためのキャビネット、机や椅子などを設置していきま

した。
つぎに社史を作るために必要となる資料の収集や整理をすることになります。おもに工場などでの勤務歴がある青柳さんは写真を、総務などでの勤務歴の長い宮川さんは書類を担当し、リストアップしていきました。

（2面つづく）

日本ファイルコン社史編纂室を取材

(1面からつづく)

お一人ともこれまでの経験から「どこにどんな資料があるはず」とわかっていたことが、資料を探すうえでの強みになったそうです。

社史の編纂に手をつけた当初は、1966年に刊行された『日本金網五十年の歩み』(注:日本金網は前社名)以後の五十年間をまとめるつもりでしたが、歴史的な記録性が薄い構成だったので、結局、一から百年の歴史に取り組むことにしたそうです。歴史を正しく残すことはもちろんですが、「みんなが手に取って楽しく読めるものにする」「社員と家族のための社史にする」という方針も明確にしました。

また、「いいものは参考にしよう」と、他社の社史を見ていき、神奈川県立川崎図書館の社史室や、社史ができるまで講演会も役に立ったとうかがいました。

社史編纂をサポートしてくれる業者の選定や打ち合せは、2013年頃から進めていきましたが、簡単ではなかったそうです。

【社史編纂室を見学】

では、日本ファイルコンの社史編纂室を紹介します。3〜4面の写真とあわせてご覧ください。

キャビネットに収められている書類は、営業報告書や株主総会議事録をはじめ多岐にわたっています。戦前や戦争直後の資料も多く、酸性紙の対策をした上で、中性紙の箱に入れて並べられていました。

古い写真は保存のためアーカイブ用のファイルを用いてファイリングし、キャビネット内に収められていました。

「日本語版」には今の社内の様子を伝える写真も数多く掲載していますが、写真撮影の際には、「いつ／どんな写真か／だれの写真か」のメモを1枚目に写しています。

また、コンピュータに保存したままでは容量がわかりにくいので、カラープリンタで印刷してファイルに綴じ、どんな写真があるのかを把握しやすくしていました。写真の例にとっても、会社の歴史を後世に伝えていくための、いろいろな工夫がなされています。

ほかに、昔の金網や、紙に透かしを入れるのに用いた型のサンプル品や現物なども保管されていました。

青柳さんと宮川さんのパソコンの周りや壁面には多くの付箋が貼ってあり、まさに作業中という雰囲気です。こうした空間から、「日本語版」と「英語版」が生まれてきたことに感激するとともに、現在、取り組んでいる「年表編」がますます楽しくなりました。

今回は社史編纂室がテーマなので、日本ファイルコンの社史は詳しく紹介できませんが、「日本語版」「英語版」は、社史のためのキャラクターを用いたり、イラストで見やすく図示したり、ページに応じて5種類の紙を使ったり、当時の技術を示すため透かしを用いた紙を挟み込んだり:と、ビジュアルで特色のある社史です。

社史が会社によって異なるように、社史編纂室のあり方も百社百様だと思います。機会があれば、また、どこかの社史編纂室を取材してみたいと思います。

(科学情報課・高田)

写真でみる日本ファイルコン社史編纂室

(取材日：2017年4月27日)



社史編纂室の正面。右側が資料を収めるキャビネット（その裏側にもキャビネットは続いています）。部屋の奥が青柳さん（左）と宮川さん（右）の作業スペースです。



青柳さんの作業スペース。写真や書類をスキャナで読み取っています。ビデオテープを確認するためのVHSのデッキもありました。

宮川さんの作業スペース。作業中の様子が伝わってきます。製紙会社などの社史も並んでいました。



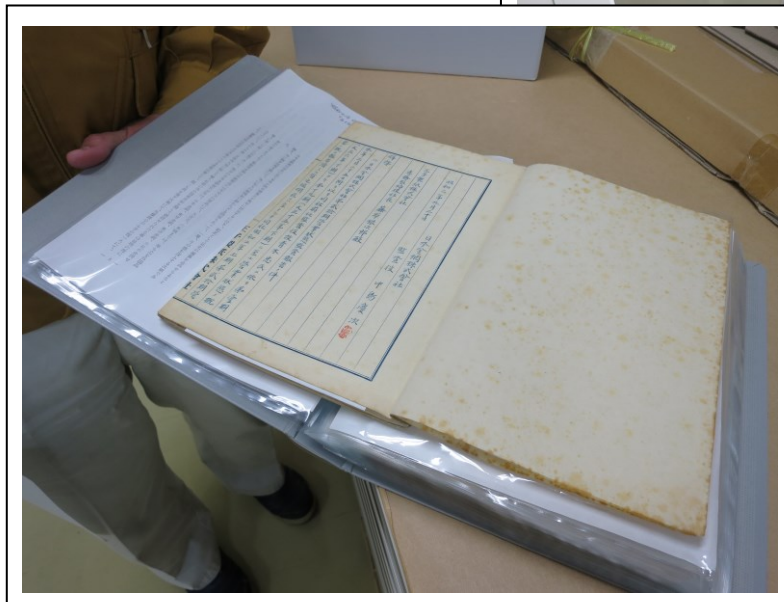


書類や写真は、紙の酸性化などの対策のため中性紙の箱に入れてキャビネットの中に整然と収められています。

こうしたキャビネットは18個ほど並んでいました。

写真はきちんとファイリング。見やすさ・使いやすさと保存を考えています。

写真をきれいに保存するための道具類も見せていただきました。保存用の道具は、ある大手家電量販店の写真コーナーの店員さんが詳しくかったです。



書類も保存対策をしてきちんとファイルに収められていました。旧社章が判明するなど新発見もあったとのこと。

長期的な保存を考えてホチキスなどは全て取り除いていますが、その際に「あまり安物のニッパーは使わない方がいいよ」との体験談をうかがいました。

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

〒210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4 電話：044-233-4537

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>